

恵山の火山活動解説資料（令和7年12月）

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①～②）

監視カメラによる観測では、Y火口の噴気の高さは概ね火口縁上100m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図2-③～④）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図2-⑤、図3）

10月14日～17日に実施したGNSS繰り返し観測では、2023年10月の観測と比べて火口原浅部のごくわずかな膨張を示唆する基線長の伸びが認められました。

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められません。



図1 恵山 南西側から見た山頂部の状況（^{ただい}高岱監視カメラによる）

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』、『数値地図 25000（行政界・海岸線）』及び『電子地形図（タイル）』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和8年1月分）は令和8年2月9日に発表する予定です。

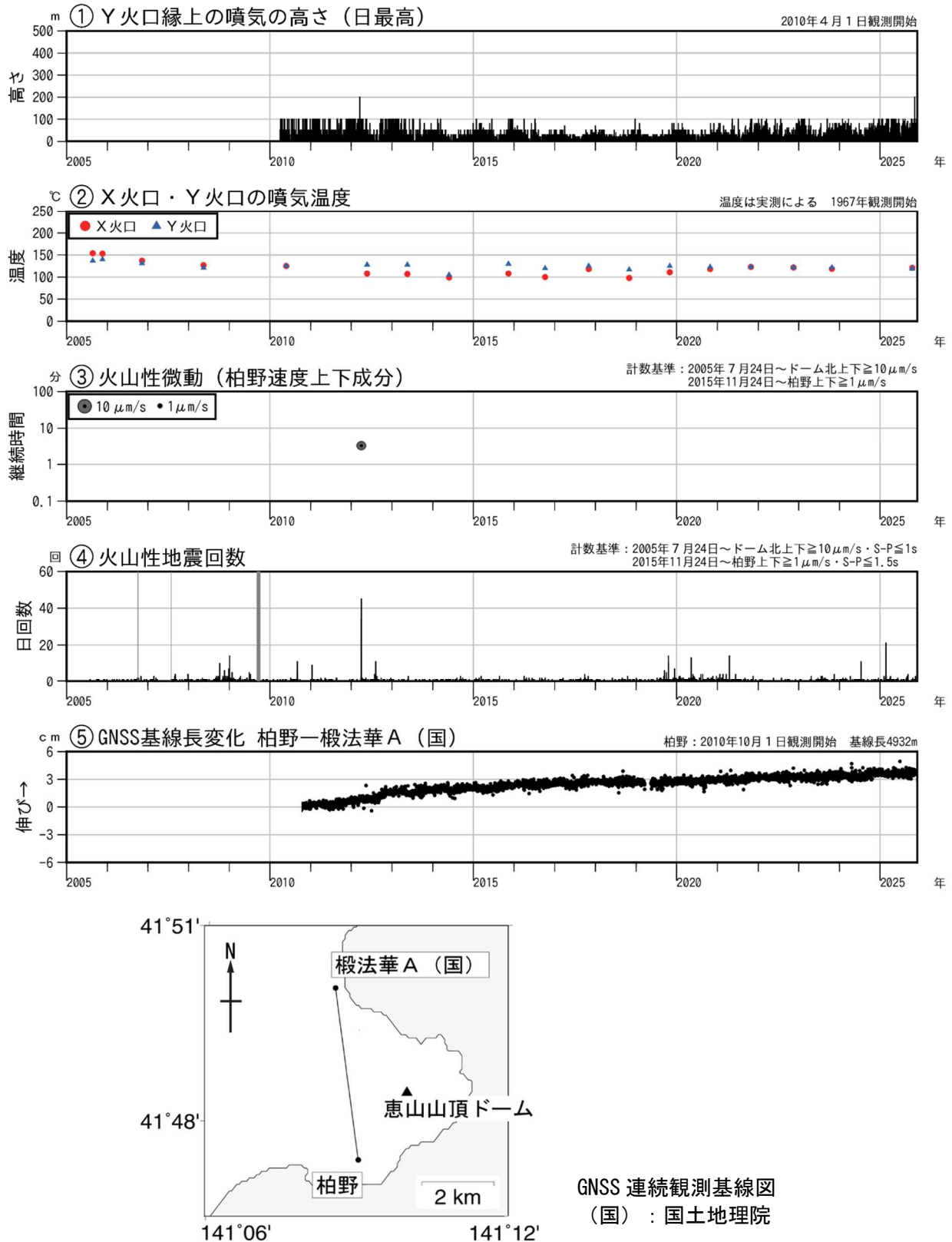


図 2 恵山 火山活動経過図（2005 年 7 月～2025 年 12 月）
④の灰色部分は機器障害による欠測期間を示します。
⑤のグラフは上図の基線に対応しています。
⑤のグラフの空白部分は欠測を示します。

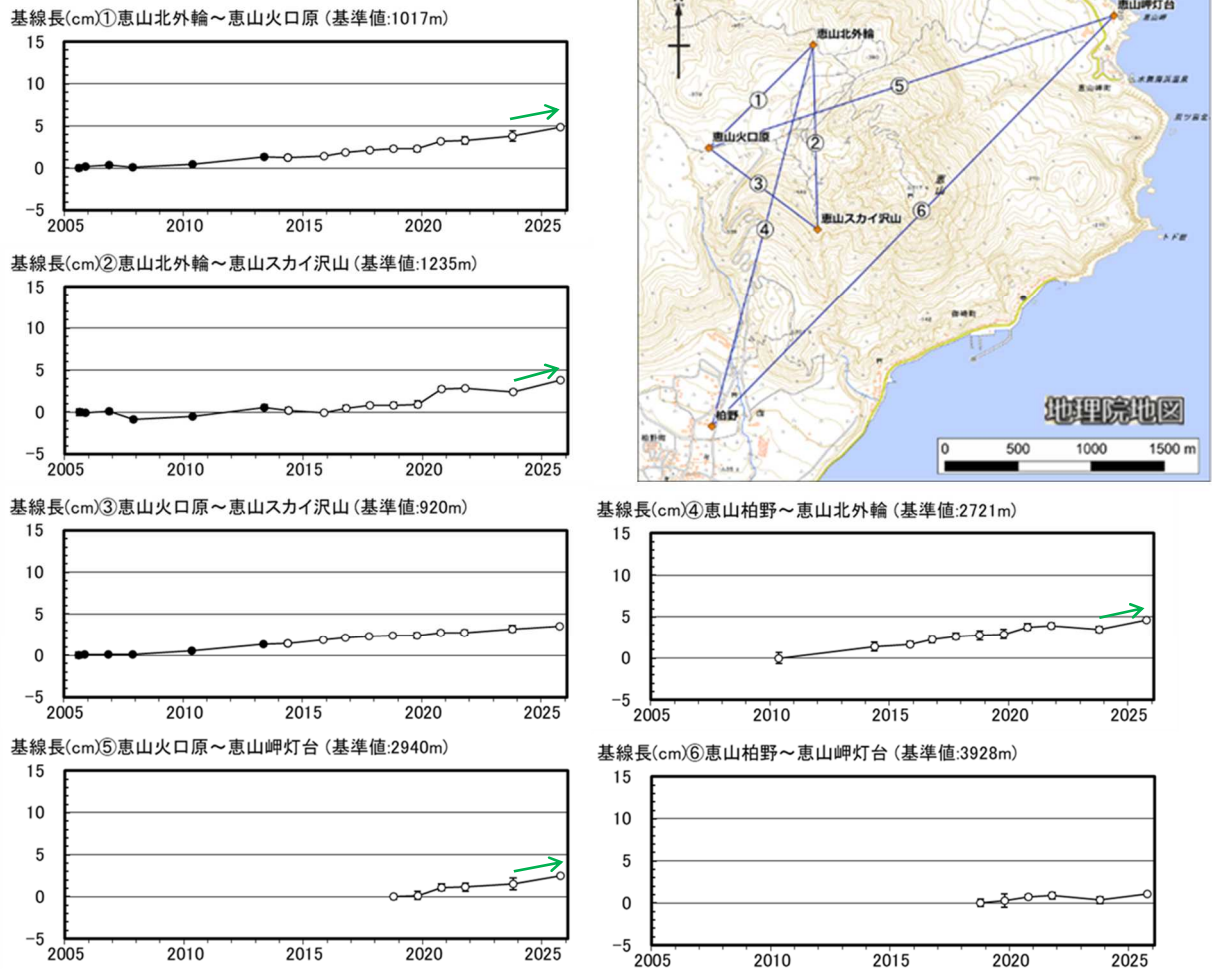


図3 恵山 GNSS 繰り返し観測による基線長変化及び基線図（2005年8月～2025年10月）
・2023年10月から2025年にかけて、火口原浅部のごくわずかな膨張を示唆する基線長の伸長（緑矢印）が観測されています。

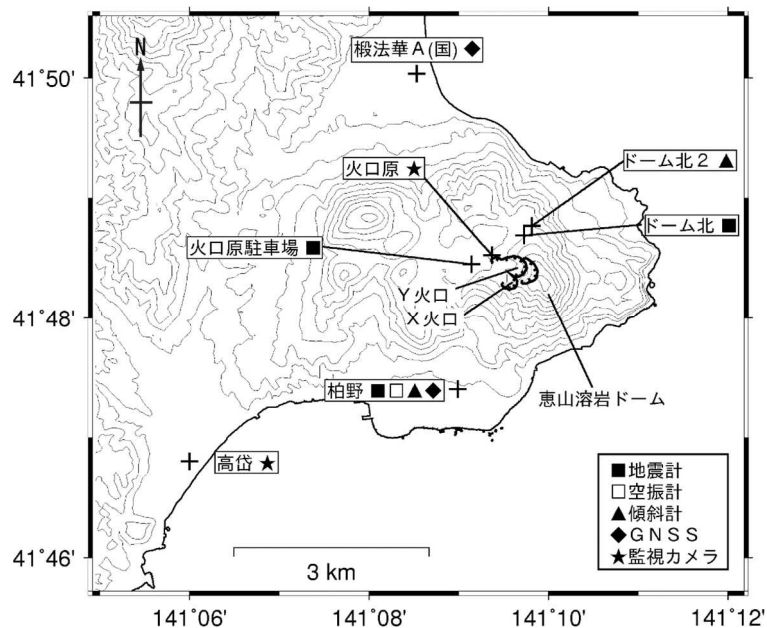


図4 恵山 観測点配置図

＋は観測点の位置を示します。
気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。
（国）：国土地理院